

威風堂々

自分自身を大切に！

思春期教室

西崎中学校
校長 宮城 義隆

五月九日(金)、全校生徒を対象に思春期教室を実施しました。講師に山田照子氏をお招きし、「性に関する正しい知識を身に付けることができる」や「自分の大切に思う気持ちを育む」等を目的とし開催しました。内容は性的同意のポイントや性被害から身を守ること等を実例を交えながら、生徒に語り掛けていました。講話終了後に保健委員長の比嘉南緒さん(三の四)が「自分の気持ちを大切にしながら、仲の良い人と関わっていくことが大切だと分かった。また、インターネット上でも被害が増えているのでSNSなどを安全に使うように気を付けたい。」と感想とお礼を述べました。

「事後に行なった生徒の振り返りを紹介します。性被害のニュースをたくさん見るが無関係だと思い、深く考えていませんでした。だけど今回の講話を聴いて、他人事だとは思わず、被害者にも加害者にもならないようにしたい」(二年女子)「自分の体の自己決定権はじぶんにある、というのを覚えておき、もし性的接触を迫られたらちゃんと

意思表示をしたい」
 (三年女子)「講話を
 聴いて学んだことは
 性被害から身を守る
 のは自分自身で、何
 かあったら一人で悩
 まないで人に相談す
 るです」(三年女子)



校長の独り言⑦

「叱る」について

数年前の話。その当時の勤務校で、採用間もない女教諭から相談を受けた。「私、叱ることがうまくできないんです。どんなふうに叱ればいいですか？」この相談に、「そうだな、例えばあなたが子どもの頃に叱られた中で、納得したり成長に繋がったと感じた叱り方を参考にしてはどうだろうか。」と返答。すると「実は私…叱られたことがないんです。」「…」

「褒めて(認めて)育てる」という言葉の認知が広がり、「叱る」場面が圧倒的に減ってきた。もちろん「褒めて(認めて)育てる」ことは間違いなく、とても重要である。しかし「叱る」ことは必要ないのか？私は「必要である」と考えている。

私は「叱る」こととは「何が間違っているかを教え、どうすればいいかを考えさせる」ことであると捉えている。その「叱り方」はとても大切で、人格を否定したり、傷つけたりしてはいけない。「人格」ではなく「行為」そのものを叱るのである。「あなたは悪くないが、その行為は間違っている。」という気持ちで毅然と叱るのである。

そうすることで、子どもたちは逞しく健全に、より良く成長していくと信じている。

そんな私も今だに時折、妻に叱られ、成長を続けているのである…(苦笑)



部活動巡り④ ソフトテニス部の巻

五月九日(金) にソフトテニス部を訪れ、部員との先生方の試合を行いました。校長・将也先生・ペアや咲羅先生・未来先生・ペアなどのチームで子どもたちとの対戦を楽しみました。

最後にキャプテンの篠原江奈さんから夏季大会に向けて、全力を尽くしたいとの決意表明がありました。



部活動巡り ⑤

五月十二日(月)にバスケット部の部活動巡りを行いました。玲奈先生の華麗なシュートや宣行先生、二條先生の躍動感あふれるプレーに生徒も大喜びでした。最後に女子のりいせさんは宮古大会への出場、男子の晨鷹さんは全力プレーをしたい、との熱い決意表明がありました。本番での活躍が楽しみです。



すべての生徒・職員が**安心・充実・挑戦**している学校をめざして